

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
社会福祉概論 Intoroduction to Social Welfare		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(栄養士養成課程選択必修)	栄養士養成課程選択必修
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
社会保障Ⅰ・Ⅱ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ・Ⅱ				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
大熊 信成	福祉棟3F	火・水・木・金の9時から16時（授業時間を除く）		授業中に指示します
授業の概要				
社会福祉の意義・理念・方法等について学習し、現代社会における社会福祉の実態を理解する。具体的には社会福祉の法体系・制度・財政全体の要旨を学習すると共に、福祉従事者としての倫理・援助技術等を学習する。また、介護保険制度等の概要についても学習する。				
授業の目標				
①現代社会における社会福祉の意義・理念について理解できるようにする。 ②社会福祉の基盤としての所得保障・医療保障及び介護保険制度について理解できるようにする。 ③関連領域として住宅・雇用等の関連制度の概要を理解できるようにする。 ④社会福祉における倫理について理解できるようにする。				
授業の方法				
基本的に講義形式で行うが、リアクションペーパーを実施し、グループ討議での振り返りを行う等アクティブラーニングの技法を取り入れる。レポート課題を実施し、知識の定着を図る。				
学習の成果（学習成果）				
①国民の生活と社会保障・福祉の関連性を説明することができる。 ②介護保険制度を中心として高齢者福祉サービスについて、説明することができる。 ③社会福祉従事者としての倫理・援助技術の概要について、説明することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（授業の進め方、留意事項、成績評価等） 現代社会と福祉の機能について			
第2回目	社会福祉とは何か 意味・概念・理念と価値			
第3回目	現代社会と福祉 福祉ニーズの変遷			
第4回目	社会福祉の歴史①欧米における社会福祉の変遷			
第5回目	社会福祉の歴史②日本における社会福祉の変遷			
第6回目	社会福祉の専門職			

第7回目	ノーマライゼーションとは何か ※レポート「ノーマライゼーションの理念について」（提出は第9回目の授業日）
第8回目	児童家庭福祉 制度と課題
第9回目	高齢者福祉 制度と課題 介護保険制度
第10回目	障害者福祉 制度と課題 障害者総合支援
第11回目	公的扶助 制度と課題
第12回目	地域福祉 概要と課題
第13回目	現代社会における家庭と福祉 家族とは
第14回目	社会福祉の課題について
第15回目	これからの社会福祉の動向 授業のまとめ

事前・事後学習 ITや図書館を活用して、授業で不明であった点は必ず次回授業までに調べておくこと。また、科目担当者や担任に質問に行くこと。常に分析をする視点を持つこと。

成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	授業への積極的参加を評価する。個人ワークを自主的に行い、明確な課題意識をもって授業に臨むことができる。これらを総合的に判断する。
レポート	20%	提示するテーマについて自分の言葉で述べる事ができる。最高評価であるSは意欲的に課題に取り組んでおり、着手すべきテーマの趣旨に沿っていて、学習の成果が十分に示されている。
調査報告書		
小テスト		
試験	60%	論述、選択記述式の定期試験を行い、評価する。論述は根拠(エビデンス)に基づき自分の言葉で述べられていること。
発表内容（態度含む）		
その他		

教科書と参考図書
 大熊信成 嶋田芳男 増田康弘編著 『社会福祉形成分析論』 大学図書出版
 福祉臨床シリーズ編集委員会編 『現代社会と福祉』 弘文堂 他 授業中に指示し、資料を配布します。

履修上の留意点・ルール
 ●実務経験（職種：児童指導員・生活指導員（障害児・者に係わる業務） 職歴：通算6年）
 一部視聴覚教材を使用し、内容をレポートで確認する。目的意識・課題意識を明確にして授業に臨み、口頭で述べたこともきちんとノートにとること。遅刻・早退・私語・居眠りは厳禁。